

すわみつえ通信

No.328 2024年8月26日

日本共産党鴻巣市議会議員
諏訪 三津枝



連絡先 鴻巣市赤見台3-2-7
TEL: 596-9440 FAX: 507-4151
携帯: 080-5039-2785
E-mail: mi-suwa@ezweb.ne.jp
mitsue-suwa@jcom.zaq.ne.jp

WEBで

すわみつえ



身近な議員として もっと届けたい声がある 声をかたちに

鴻巣市議会9月定例会始まる

鴻巣市議会9月定例会は、8月29日(木)より9月24日(火)まで27日間の日程で開催されます。

日本共産党議員団は、市民の命とくらしを守る政治をおこなうべく、地方政治に皆さんの声を全力で届けます。ご意見ご要望をぜひお聞かせください。

今議会に上程される議案は報告1件と条例改定・2024年度補正予算・2023年度各会計の決算など21件です。市民目線で審議します。

議会日程は、右表をご参照ください。

8月29日(木)	・議会開会 ・議案上程・説明
9月3日(火)	・行政委員に対する質問 ・議案に対する質疑、討論、採決 ・議案、請願に対する質疑、委員会付託
9月5日(木) 6日(金)	・文教福祉常任委員会 ・まちづくり常任委員会
9月9日(月) 10日(火)	・政策総務常任委員会 ・市民環境常任委員会
9月12日(木)・13日(金)・18日(水)・19日(木)	一般質問
9月24日(火)	・委員長報告、質疑、討論、採決 ・議会閉会

「鴻巣市立中学校生徒海外派遣報告会」が開催され出席しました

オーストラリアのボーカムヒルズハイスクールで海外派遣研修を終えての報告会が8月23日(木)、「クレアこうのす」で行われました。文教福祉常任委員は昨年に続き出席させていただきました。

生徒はホームステイ先での交流や英語研修での楽しかったことを英語と日本語でひとりひとりが報告しました。「人の心に国境はない」「個性を大切にすること」「相手を理解しようとする事」など、言葉が違ふことで新たな発見と学びがあったと語りました。

子どもたちが豊かに学べる社会にしていかななくてはならないと感じました。



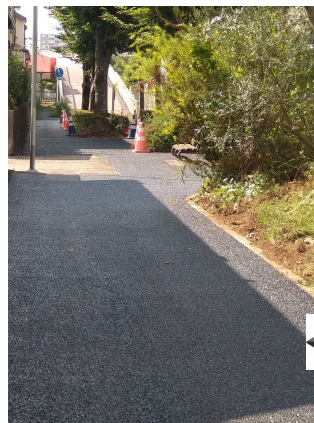
思い出や武骨な父の盆踊り

【俳句コーナー】

瑠璃子

赤見台3丁目遊歩道 舗装修繕工事完了

令和6年度の自治会総会で「遊歩道がひび割れと樹木の根上りがあり、令和5年度内に舗装修繕工事が実施されたが、駅に向かう歩道橋の手前約80メートルの遊歩道部分が未だ根上りがあり危険である」とご意見が出され、市に追加修繕を依頼していました。工事が完了し安全が確認できました。



舗装工事後



舗装工事前

毎週朝 駅頭においてホットなニュース「すわみつえ通信」をお届けします。

(月)吹上駅南口 (火)北鴻巣駅東口 (水)北鴻巣駅西口 (木)吹上駅北口 (金)鴻巣駅西口



政治部長
中祖寅一 氏

岸田首相 政権投げ出し 政治の転換へ歴史的チャンス

2020年8月の安倍晋三首相、2021年9月の菅義偉首相、そして今回の岸田文雄首相—3代続けての自民党首相の政権投げ出しです。自民党政治の深い行き詰まりがあります。日本共産党と「赤旗」は正面对決を貫き、自民党を追い詰めてきました。

政界を激震させてきた「赤旗」日曜版による裏金スクープと日本共産党の国会論戦は、企業・団体献金とパーティー収入に依存する自民党の本性を白日のもとにさらしました。企業・団体献金が財界本位に政治をゆがめるという根本問題で、自民党は反省も改革もできないことを示しました。

さらに30年にわたり経済が成長せず、賃金が上がらず、少子化が止まらず、有効な対策も見えない—自民党の経済無策への国民の失望も深まり続けています。自民党中堅議員の1人は「カネの問題は、ひとり岸田首相の責任ではなく、首相が出馬をやめて一掃できるものではない。経済格差と社会の分断は岸田政権のもとでより拡大した」とし、「誰が新総裁になったとしても厳しく問われる」と語ります。

安倍、菅、岸田の歴代政権のもと、集団的自衛権の行使容認と日米軍事一体化、そのもとでの敵基地攻撃能力の保有と大軍拡が強行されてきました。

日本の「安全保障」どころか列島丸ごとの戦争の最前線拠点化が進み、危険が大きく増大しています。

民意無視の沖縄の米軍新基地建設強行、森友・加計や桜を見る会の疑惑、学術会議の会員任命拒否、米兵による性暴力の隠蔽(いんぺい)など、立憲主義破壊の強権政治、政治の私物化とモラル崩壊は極限に達しています。これらの問題でも追及の先頭に立ってきたのは日本共産党と「赤旗」です。



岸田首相は総裁選への不出馬表明の中で、憲法9条への自衛隊明記を再び呼号しました。自民党関係者は「他の総裁選候補へのメッセージだ。安倍首相以来の道を推進する」と語ります。

「戦争する国」づくりの加速、完成を目指す危険な自民党総裁選の事実上のスタートです。新総裁が選出されれば、解散総選挙へと進む可能性も高いとみられます。行き詰まる自民党政治を終わらせ、政治の転換へ、まさに歴史的チャンスを迎えています。

【しんぶん赤旗 8月15日付 政治部長 中祖寅一】

表情とは裏腹に

芥川龍之介に「手巾(ハンケチ)」という短編がある。大学教授が自宅で演劇の本を読んでいると、教え子の母親が訪ねてくる。闘病中だった息子が亡くなったという◆涙を流すでもなく、口調はおだやかで時折笑みも浮かぶ。教授がふと、床に落ちたうちわを拾おうとしたとき、テーブルの下に母親の膝が見えた。ハンカチを握った手が激しく震えていた。表情とは裏腹に〈実はさつきから、全身で泣いてゐたのである〉◆2019年の自民総裁選で、敗れた候補者がさわやかな笑顔を浮かべていた。岸田文雄氏である。普通なら悔しがって不思議はない。妻の裕子さんが対談で語っている。「そこが主人のいいところでもあるし、強い部分であるのかもしれないですね。打たれても芯までダメージが届かない…」◆岸田首相の退陣表明で印象深いコメントがあった。「最後まで何がしたいかわからなかった」。ハト派ながら改憲に熱心で防衛費増額など軍拡路線。裏金事件で派閥解散など決定はいつも突然。ちぐはぐな経済対策。浮かべた表情からテーブルの下の本音は読み取れなかった◆「手巾」の教授が読んでいた演劇の本には、顔で笑って手元でハンカチを裂くような演技は「臭味」だと書かれている。「くさい芝居」というやつだろう。選挙のために「顔」を刷新するだけでは「臭味」は消せまい。

【佐賀新聞 8月16日付 コラム「有明抄」】